

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開所当時は、他の事業所のを掲げており、H17年度の外部評価の改善点でもありました。職員と共に作成した基本理念は、利用者、家族、地域を三本柱に図形にして分かりやすいものにしました。	
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	今年度は職員の退職や異動が多く、理念の共有化には難しいものがありました。入社当日にオリエンテーションを実施し、その中でホームの理念、運営基準等を指導しています。	○ 平成18年度に理念を作成しました。地域との取り組みや、利用者のニーズも少しずつ変化しています。現状にあった理念の作成を、職員と共に話し合っていくようにしています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入所される利用者、ご家族にはパンフレット等を中心に伝えていきます。地域には、年3～4回「JOYだより」を発行しています。ホーム見学をされる方には、廊下に掲示されているものを分かりやすく説明しています。	○ 地域の病院の相談室にも「JOYだより」を送付しています。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	運営推進会議を通じて町内の方とも顔馴染みになりましたので、道で会った時に声をかけて下さるようになりました。春には野菜の苗を届けて頂いたり、秋には大根、芋等を頂いています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の親睦旅行や清掃活動等積極的に参加しています。	○ まだ職員だけの交流になっていますので、利用者も参加出来る場を作りたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会の親睦旅行に職員が参加し、幹事の手伝いやお身体の不自由な方のお世話をさせて頂いています。	○ 運営推進会議の中で車椅子の貸し出しや、町内に暮らしている独居の方の相談や支援の協力を、申し出ているが、まだ実行には至っていない。今後積極的に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各ユニット会議で外部評価の意義、自己評価の目的等話し合っており取り組んでいる。自己評価については、職員全体で書き込み、最終的に取り組み強化の部分を把握するよう努めている。	○ 前回に比べ、改善点を意識する事に努めた。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	第6回まで実施している。日々の活動、現在取り組んでいる内容を報告している。各立場の参加者のご意見・評価を活用するように心掛けている。	○ 町内にホーム(認知症)の理解が得られるようになり、地域の交流の機会は増えたが、議題にあげる取り組み内容を、今後どのようにしたら良いか悩んでいる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市が主催する会議や研修には、積極的に参加している。困難な事例等があった場合には、直接担当者に相談をし指導を受けている。	○ 今後も継続していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者、介護支援専門員は研修には参加し理解はしているが、必要な時に支援出来る体制は万全とはいえない。	○ 必要な人がいたら各機関と連携を図り、その人らしい生活が送れる様に支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修会には参加し、理解はできている。申し送りの時にカンファレンス等を実施し、ニュースや新聞等の情報を職員間で話す場を設けている。	○ 全職員が研修を受け、防止関連法について、理解をし遵守に向けた取り組みを徹底していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は重要事項説明を丁寧に行い、ホームで出来る事、出来ない事を明確に説明しています。利用者の状態変化により契約解除に際しては十分な説明と話し合いをしている。	○ 今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度からその思いを察し、その時々で管理者、職員が個別に話し合いをする機会を作っている。	○	申し送りやカンファレンスの際に職員間で話し合いを行ない、利用者の不安や意見を共有化しているが、改善にまで至っていない。外出の頻度を増やすなど利用者の希望を叶えていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりやエピソードをお話したり、写真を見せています。毎月の通信でもお知らせしています。心身の状況については、随時記録等を見て頂きながら説明しています。金銭管理は、毎月明細書、領収証等を送付しています。	○	身体の特変時は急ぎ知らせること。また、誕生会・行事等も事前に知らせる事を心掛けている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情口を設けています。日頃からご家族には何でも言って貰えるような、雰囲気作りに留意しています。出された意見や苦情に対しては、職員間で検討し直ぐに対応しています。	○	意見箱を玄関前に設けていますが、活用されている状態ではないので、対応策を検討していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	総合施設長、管理者が定期的に職員の要望や意見を聞くように、心掛けて個別に面談を行っているが、把握していない可能性もある。	○	継続する様、努めていく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化により、勤務時間の変更等は事前に職員間で話し合いをして柔軟に対応している。管理者、介護支援専門員は状況に応じた対応が出来るように、通常のシフトに入っていない為、夜間の対応や緊急時等に対応出来る体制になっている。	○	継続していく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動はあるものの、日頃から両ユニットに顔を見せているので、利用者様が馴染みの支援を継続して受けられるように配慮している。	○	職員との定期的面談を行い、職員の精神面・肉体面のフォローが出来る体制をつくっている。今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講できる様にしている。管理者、介護支援専門員はそれぞれの分野の研修には、月1回は参加している。新人スタッフにはスーパーバイザーである本社の部長が研修している。それらの研修報告書は、全職員がいつでも見られるようにしている。	○	研修機会を確保する為には、職員と十分話し合いながら、年間計画の中で研修を位置づけていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区内に連絡会があり、その中で研修や交流する機会を持っている。同業者とは電話等で情報交換をしたり、ホーム見学等をしている。	○	職員には他のグループホームの見学等が数多く出来るような機会を設けていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の疲労に気を配り、精神面・肉体面でリラックス出来るように、出張マッサージなど福利厚生面に配慮している。	○	他のグループホームとの交流や、親睦の場を作っていきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	頻回にホームに来ており、職員個々の努力は把握し評価している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族・ご本人より今日までの経過と今後の希望、困っている部分等を聞き出す努力を忘れず信頼をもって頂けるよう配慮している。	○	入所してしばらくは重点的にかかわり、コミュニケーションを図るようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の困っていることや不安な事を、時間をかけてゆっくり聞くようにしています。またホームとしてはどのような対応が出来るか、事前にリスクも含めた話し合いをしています。	○	ご家族同士の中でもご本人に対する思いや意見のくい違いがある為、その辺の気持ちを考慮しながら、信頼関係を築いていきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学や入所を前提に相談を受けた時、現在ホームで出来ることを明確に説明するよう努めている。場合によっては他の事業所を紹介することもあります。	○	今後も継続していきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族にホームを見学して頂くことから始めています。ホームの雰囲気、職員や他の利用者の様子を見て頂き、安心して納得して貰えるようにしています。また管理者、介護支援専門員はご本人に面談に行ったり、ホームに来て頂いて、まず顔を覚えて頂くようにしています。	○	やむを得ず、直ぐ利用になった場合はご家族や各関係者から、情報の提供を多く頂くようにしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人と共に一日一日を一緒に生活していく中で、共に助け合い生活を送っている。利用者様に出来る事を手伝って貰っている。(茶碗拭き、洗濯物たたみ、調理等)	○	今後も継続していきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に、ご本人の日々の出来事や希望されている事、また職員が気付いた事柄をこまめに報告しています。ご家族の心配事や思いに対しては、真摯に受け止め、ゆくり時間をかけて話をするように心掛けています。	○	今後も継続していきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族、ご本人の思いや状況を判断しながら、外泊や外出で一緒に過ごす事を勧め、思い出作りをお願いしています。また行事等にご家族を誘ったりしながら、より密な関係づくりを働き掛けています。	○	ご家族が疎遠となっている場合の、働き掛けがまだ不十分です。具体的な対応策を検討していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前住んでいたアパートや商店まで、散歩を兼ねて出かけたり、ご主人の命日に自宅に帰りお参りをされている利用者もいます。	○	馴染みの友人、知人がホームに遊びに来てくれる人は限られているが、継続的な交流が出来るよう働き掛けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知の差でトラブルに発展することを防ぐ為、利用者同士の関係について職員間で情報を共有し、その日の体調や気分の波を把握して深く見守るよう努めている。	○	利用者が日々の共同生活の中で、お互いに理解し合い、仲間意識を深めるように支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された後も近況報告の電話を下さるご家族がいます。また季節の野菜を届けて下さるご家族もいます。	○	今後もご家族の相談に乗れるような関係づくりしていきます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を使用して、利用者からの話や表情、行動から、生活の意向等を把握している。	○	センター方式では、職員が担当制を取っており、利用者との関わりを少しでも多くする事で、困難なケアにも対応出来るようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接や、見学の時にご本人やご家族から、話を聞いている。入居後の毎日の生活の中で、少しずつご本人や面会に来た家族から聞いている。	○	入居前から、センター方式の用紙を渡す事によって、ご本人やご家族が余裕をもって、今までの生活を考えられるようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別の介護記録や気づきノートで情報を確認して、毎日の申し送りでは、各職員が持っている情報を、報告共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画に対する質問などには、介護支援専門員が対応して説明している。ケアカンファレンスや面会に来たご家族からの話を聞いて、介護計画を立てている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しは、目標期間終了日に合わせて行っており、症状が変化した時は、なるべく早くご本人から、情報を収集、職員と共有して、新たな計画を立てている。	○	次の介護計画作成に当たりモニタリングを行い、現症状の把握と新たな問題、課題の設定を実施している。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者別の個人ファイルがあり、介護記録を作成している。時系列の項目ごとに記録しており、簡潔に書くようにしている。	○	利用者の症状や様子を見やすくする為の、介護記録の見直しを行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの中で誕生日会や行事、運営推進会議等ご本人やご家族、関係者等が参加出来るように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署員立ち会いのもと、利用者と職員による防火訓練の実施、警察への挨拶に行き、徘徊時の協力を頼んでいる。ボランティアを受け入れ、お話や掃除の手伝いを行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	運営推進会議や研修を通して、情報交換をしている。	○	
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に一度の運営推進会議の場で、地域包括センター職員から話しを聴いたり、質問を受けたりして、情報共有をしている。	○	運営推進会議に地域包括支援センターのセンター長を招き地域の福祉施設の活動や、介護保険に関する知識を教えてもらうようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居する前に、ご本人とご家族に内科往診医の情報を伝えている。往診医がいるクリニックでの受診も可能で、携帯で24時間連絡がとれる体制にある。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	グループホームと馴染みのある精神科病院に受診し、精神科医から認知症の事を、相談したり治療する事が出来る。ご本人やご家族に対しては、丁寧に症状を説明してくれる。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションの看護師が、週1回訪問して健康管理や往診医への、情報提供を行っている。	○	看護師と気軽に相談やアドバイスを受けられるように、十分な時間を確保してある。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	内科往診医の協力病院の医療相談員や医師からの情報を、スムーズにご家族に伝えるようにしている。ご家族からの情報も適確に病院へ送っている。	○	入院時の利用者情報表送付を往診医を介して実施している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	症状悪化の際は、往診医からご本人とご家族に、治療の方針を説明してもらい、最終的な判断はご本人及びご家族の意見を聞いている。	○	重度化した場合終末期の判断は、生命に係わる事なので、往診医と話し合いの場をつくり、対応していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重症化した時の「できる事、できない事」の支援は、往診医やかかりつけの医師と話し合い実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	グループホームが持っている情報や、ご家族・医療機関など関係者間で得た情報を可能な限り提供し、ダメージを防ぐ事に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者一人ひとりに対し、人格を尊重したうえでの適切な声かけ、対応をしている。また、自尊心を傷付けるような対応をしない事は勿論、生活の意欲が湧くような対応を心掛けている。個人情報の取り扱いは徹底出来ており、プライバシーを損ねる事がないうえに努めている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人ひとりのわかる力に合わせた言葉かけや説明を行っており、利用者が納得のいく自己決定が出来るよう支援を行っている。	○	利用者の話している事、行動に対し、何を訴えているのか分からない時があるので利用者が気持ちよく暮らせるように介助していきたい。職員同士協力し、支援したい。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者本意の生活支援を心掛けており、職員は一人ひとりのペースを把握出来ている。ただ、状況によっては職員側の都合で動く場合も見受けられる。	○	業務優先にならないよう徹底したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	整髪は声掛けや介助で毎日行っている。理・美容は月に一回訪問にて来ていただき、ご本人・ご家族の希望を聞いてカット等をしている。まだ身だしなみには気をつけており、洋服等の組み合わせの相談にも応じている。	○	中には体調の関係で、訪問理美容を受けられない利用者もいるので、職員が毎日髭剃り介助をしている。その際のタイミングや、声掛けなどにも配慮する。
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	自分の役目・楽しみと感じていて、自らお手伝いをして下さったり、声掛けによって片付けなどを手伝って下さる方がいますので、無理強いせず、出来る能力に応じて行っている。但し、配膳、下膳はふらつき等を考慮し、職員が対応している。	○	ご本人の無理とならない範囲で、一緒に準備・片付けを続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物・おやつに関しては、主治医から制限がなければ随時提供している。お酒については、焼肉パーティーやクリスマス会等の行事の際に、希望があれば提供しているが日常的ではない。一人ひとりの嗜好に合わせたものを日常的に提供する事は難しいが、行事等の際に「何が食べたいですか?」と、希望を採り入れるよう努めている。また、ご家族来訪時に持参された飲食物については制限はしていないが、職員の方で把握するよう努めている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自ら排泄の訴えがある場合は、見守りや介助をしている。尿意の感じにくい方、おむつを使用されている方については、随時声掛け、誘導を行っている。利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて医師の往診時に下剤等の調整をして頂いている。また抵抗感や羞恥心を伴わないよう心理面からの支援も心掛けている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の時間等は、職員の都合上で限定されてしまい、個々の希望どおりに入浴出来ていない。ただし早急に入浴の必要がある場合は、夜間を除いていつでも入浴出来る体制づくりは出来ている。また、入浴中に昔のお話を伺ったりと、利用者と職員が信頼関係を築くためのコミュニケーションの場となっており、楽しみながら入浴されている利用者もいる。	○	自ら「お風呂に入りたい」と言う利用者がいなく、スタッフがその日に入浴する利用者を決めているので、お風呂に入りたいと思って頂けるような声掛けをするよう心掛けていきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	清潔な寝衣に着替えて頂き、「おやすみなさい」と必ず挨拶をし心を和ませていただく。褥瘡予防や気分転換のため、適宜体位交換をしている。また日中も活動などのあと、少し休んでいただくよう声掛けをしたり、状況を見て自室で休んでいただくように声掛けをしている。また、利用者の体調や排泄パターンに応じて随時巡回、声掛けを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を活かした日々の活動、自室の掃除、新聞たたみ、もやしのひげとり等、日課として声掛けをし行って頂いているが、日々の生活の中で楽しみごとなどを支援するのは難しい。また、特定の利用者に偏ってしまう場合もある。	○	一人ひとりの楽しみごと、気晴らしになる事が必ずしもスタッフが関わることは限らないので(中には一人で過ごしたい利用者もいらっしゃる)、その人に合った個々の気晴らしの支援が出来るよう職員同士話し合っ、声掛けをしていきたい。また、既に取組んでいる料理の手伝い、掃除、洗濯物たたみ、パズル、塗り絵、貼り絵等は継続していきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理はホーム側で行っている。利用者の希望や力に応じて、買い物に行く際などにご本人にお金を渡す場合もあるが、現在は金銭を所持するのが困難な利用者が多いため、ご本人がお金を持つことの大切さを職員が理解しているものの、現実的な支援としては難しい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候が良く、利用者の体調の良い日には、声かけをして近くへ外出の機会をつくっているが、職員の配置数に限りがあるため、一人ひとりに希望には副えていない。そのためご家族の協力を得て、面会時にご家族様と外出して頂くようにしている。	○	季節や職員数の問題はああるものの、日常的に外出できるよう、職員間で検討していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の協力を得て、お墓参りや買い物、ご家族宅への外泊などを支援している。また、近場ではあるが、外食をしに行く機会を設け、普段行けない場所へ出掛ける支援に努めている。	○	利用者の状態や、職員の配置等難しい面もありますが、四季感を味わえるような場所への外出支援をしていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望があれば、いつでも電話を掛けることができる。手紙のやり取りをしている利用者はいない。	○	希望があった際、適切に支援出来るよう話し合いをすすめていきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時には、ご本人の近況をお話させて頂き、馴染みの人からのお話も聞かせて頂き、丁寧に対応するよう心掛けて、気軽に訪問して頂けるよう努めている。	○	業務中で忙しい状況でも、きちんと挨拶をしている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者から全職員へ、身体拘束についての指導を随時行っている。また、見守りを重視する事で身体拘束をしないケアを実践している。	○	ユニット会議を月に1度開催しているので、その場で身体拘束に関する勉強会を開催していきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施錠の弊害について、管理者から全職員へ指導をしていて、職員間でも話し合いがされている。但し、夜間のみ防犯上の理由で玄関に施錠をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は日勤リーダーを中心に、利用者の所在や様子を把握している。また職員同士が常に声を掛け合い、連携を図りながら利用者の安全確保に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物の保管はホームで行っている。また利用者が刃物を使用される際は、職員が見守りを行っている。また薬の管理は、ホームが行っており、施錠された薬品庫にて管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	過去のひやりハット・事故報告書のケースをもとに、利用者の身体状況に応じて、事故の起きる可能性を認識しながら、事故防止に取り組んでいる。居室内は常に整理整頓し、環境整備上も気をつけている。食事の際には観察は勿論、座位を整え、必要に応じて刻み食・トロミ等で対応している。誤薬防止のため、薬は職員が管理し、服用時も飲み込みをしっかりと確認している。	○	全ての事故防止の取り組みが行われているとは言えないので、ひとつひとつ取組んでいきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	初期対応については、管理者が全職員に定期的に指導している。応急手当の訓練は、定期的には行っていない。緊急時の連絡体制を掲示している。	○	定期的な訓練を検討していく。特に夜勤帯は、職員が1人なので、慌てず焦らず応急処置や管理者への連絡等、スムーズに行えるよう定期訓練が必要である。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施しており、全職員が災害時の避難経路や消化器の場所などを正確に把握している。	○	地域の協力体制が得られるにまで至っていないので、運営推進会議の場を活用し協力体制を確立していきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に管理者、介護支援専門員からご家族に説明をしている。また、入居後も状態が変化した際に、都度お話をさせて頂き、ご家族にも状況を把握して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調に変化がみられる場合、管理者へ報告、指示を仰ぐ体制が整っており、職員同士も情報を共有し、対応に結び付けている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々のファイルに薬の内容が記載されており、職員は随時内容確認を行っているが、全職員が全ての薬を理解している状況ではない。薬の変更などがあった場合は、申し送りでの情報共有はもちろん、気付きノートに記載して全職員が情報共有できるようにしている。	○ 身体的に飲み込み不可の方は、薬剤の形態を飲みやすいように医師に相談をして変更等をしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	1日の水分摂取量と排泄量のチェックをしている。排便が何日もない利用者には、医師の指示のもと下剤を服用するなどしている。また、腸の活動を活発にするため、適度な歩行運動を行っているが、飲食物の工夫も含め、取り組みが不十分である。	○ 季節の果物や乳製品(牛乳・ヤクルト・ヨーグルト等)をベースにしたおやつを検討していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりに応じて声かけをして、食後や就寝前に口腔ケアを行っている。しかし、全員が毎食後に口腔ケアを行えているわけではない。	○ 定期的に歯科の往診を活用し、治療必要な利用者是对応を行っている。また利用者全員ではないが、定期的に口腔チェックをしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員同士が連携し、利用者様の食事量や水分量を把握し、必要量の確保に努めている。状況によって必要量が摂取出来ない利用者には、医師の指導のもとエンシュアを飲用して頂いている。水分量の少ない利用者には、声かけをして摂取して頂いたり、ジュースをゼリーにしたり工夫をしている。	○ 体重減少に注意し、エンシュア等を活用していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防策を掲示しており、全職員励行している。タオルは、布を撤去し、使い捨てのペーパータオルを使用している。トイレの後には手洗いの声掛けや介助を行っている。予防接種は利用者・職員もともに実施している。	○ 汚染した下着や紙オムツは直接床に置かないように指導を受け実施している。使い捨てグローブを利用し、その都度フタ付きの汚物容器に破棄している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、ふきん等は、使用後に漂白をしている。冷蔵庫内は週に1回、清掃をし清潔にしている。また食材は定期的に在庫を点検して、品質管理に努めている。食事の前には手洗いを励行している。食事の作りおきはしない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に靴の履き替え、訪問者との会話等の際に、気軽に利用して頂けるベンチを用意している。夏場は玄関前にプランターを設置し、色とりどりの花で親しみやすさを演出している。	○	玄関前に利用者や近隣の人たちに休んで頂けるぬくもりのある木のベンチを設置するなど工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	全空間バリアフリーになっている。廊下に日常の生活風景や利用者と職員の写真を掲示し、家庭的な雰囲気を出している。絵手紙などを掲示し、季節感を味わえるようにしている。	○	交通量の多い場所にあるので、夏の暑い時期は窓を開放すると騒音で落ち着かない為、エアコンを備えつけて湿度を調整している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間に食卓テーブルとは別に、畳敷きの上にソファを配置する事によって、一人でも気軽に過ごせるようにしている。	○	廊下に木のベンチ椅子を用意しています。運動して疲れたときなど利用者がひと休みされています。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス・椅子・身の回り品等はご本人の好み、馴染みの物を使用して頂いています。利用者やご家族の写真を居室内に飾るなどして、居心地良く過ごせる居室づくりに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計・湿度計をこまめにチェックして、状況に応じて適切な温度・湿度を保てるよう調整をしている。空気の入替えを行っている。	○	冬期は乾燥防止に加湿器を使用しているが、効果はあまりないので防止策を検討中である。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいる きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	床には段差がなく、ホーム内部の壁全体や浴室内部に手摺りを設置しており、安全な環境が整備されている。また、車椅子対応のトイレとなっており、自立した生活が可能な環境となっている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室の場所がわかるように、ドアの前に名前・写真の入った表札を掛けている。トイレはドアの前に大きく表示している。	○	個人のタンスに(パンツ・タオル・靴下)等と名前を記したシールを貼り、極力自分のペースで自室の整理、又は必要な物が取り出せる工夫をしている。湯のみ等は、一人ひとり区別してあり自分のがわかるようにしている。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭で家庭菜園を行っている。草むしり・水撒き・苗植え・収穫等、一緒に活動して空間を活用出来ている。	○	2階ベランダは洗濯干し場を兼ねており、職員と一緒に洗濯干しなどを手伝って下さっています。またご家族と一緒にシャボン玉をしたり、お茶を飲むなどして気分転換をして頂いています。

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>✓②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>	利用者の認知症の重度化等で、ケアが一部の利用者に偏っている部分がある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>✓③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>	全介助の利用者がいますので、ゆったり過ごすことが難しいのが現状ですが、時々一緒にお茶を飲むなどの機会をつくっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	思い思いに暮らしている。介助が必要な方にも、意向を伺いながら行っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>✓②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	のんびり穏やかに過ごされています。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>✓③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	ご家族に協力して頂いている。冬場は積雪のため困難だが、夏場は出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	週1回の医師による往診、訪問看護ステーションの看護師との連携により充実している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	職員が連携していくことにより、安心して暮らせていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>✓③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>	管理者や介護支援専門員は積極的に対応しています。また職員も節度をもって対応しています。

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ✓④ほとんどない	不定期ではあるが、ボランティアさんが来ている。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ✓②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	徐々にではあるが、当ホームでの取り組みなどが理解されつつあると思う。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ✓②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	職員の退職などがあり、信頼関係を築くのが課題となっています。今後はユニット会議などを活用して、チームワークづくりを心掛けます。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ✓②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	何かあれば、職員は利用者のお話を聞くよう努めているが、本音を聞くことは難しいです。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ✓②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	面会時やケアプランの見直しの際に、職員側から近況報告をしています。その際に、要望等をお聞きするようにしています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者の年齢と認知度の相違が少ないため、仲間意識があり、関係づくりが良好です。洗濯たみ・もやしのひげとり、茶碗拭きなどを協力して手伝って下さいます。それを見守るスタッフの声掛けも穏やかで自然体です。90歳以上の利用者が多いので、いつまでもお元気でホームで誕生日を多く迎えて頂くようにこれからも支援していきます。職員の定着もあり、チームワークが図られ、自分達で問題解決をするようになってきました。

また、各スタッフは